

HPVワクチン、済みましたか？

令和6年4月改訂版

重要 定期接種をお済みでない方へ

令和5年4月より

さらに効果の高い

2価、4価に加えて、**9価のワクチンも公費接種**になりました！

- **令和6年度無料接種対象者：12歳～27歳相当の女性**
- **令和6年度に16歳～27歳になる女性は、原則3回接種のためキャッチアップ無料接種期間の令和7年3月末での終了に伴い、令和6年9月を過ぎると、最大10万円の自己負担が必要**
- **9価の1回目を15歳になるまでに受けると2回接種で完了**

厚生労働省ホームページ

HPVワクチンに関する情報



是非ご覧ください。

県医師会長メッセージ

ありふれた HPVの持続感染がきっかけで、誰でも、若くして子宮頸がんになる可能性があります。

でも今は、**9価のワクチン接種で、子宮頸がんの原因の約9割を占める HPVの感染を予防できる**時代です。

山口県でも、**9価の接種希望者が増えています。**

一人でも多くの対象の方に、ワクチンを安心して受けていただけるよう取り組んでいます。

「HPVワクチン、もう済んだ？」

娘さん、お孫さん、周りの大切な人に、みなさんからも声かけをお願いします。

生涯で70人に1人がなる子宮頸がんを山口県からなくす、未来への一歩です。

山口県医師会長 加藤 智栄

大切なメッセージ
心にとめて
みんなにも
伝えたい！



女性のがん対策 知事メッセージ

子宮頸がんは、女性の子宮の入り口付近にできるがんで、妊娠・出産・子育て世代の若い女性に増えていることが特徴です。

日本では、毎年約1万1千人の女性が子宮頸がんにかかり、約2千9百人の方がお亡くなりになっています。

子宮頸がんにかかっても、ほとんど自覚症状がありませんが、将来の妊娠・出産に影響が出る可能性があるだけでなく、進行した場合、命を救うために、子宮を摘出するなど大変な治療を受ける必要があります。

子宮頸がんを予防するためには、HPVワクチンの接種が重要です。HPVワクチンの接種により、子宮頸がんの原因となるウイルスへの感染を防ぎ、将来がんになるリスクを大幅に減らすことができます。

現在、定期接種の対象となる小学6年生から高校1年生相当の女子は、公費で接種ができます。また、これまでに接種機会を逃した若い世代の女性の方も、令和7年3月までは公費で接種することができます。

HPVワクチンの安全性については、厚生労働省の審議会により確認されており、こうしたHPVワクチンの有効性などについて知っていたら、是非、接種について積極的に御検討ください。

また、子宮頸がんは、早期発見することが重要ですので、20歳を過ぎたら、2年に1回は、子宮頸がん検診を受診するように心がけてください。

大切な命をあなた自身の行動で守りましょう。

令和5年9月27日 山口県知事 村岡 嗣政

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/161415.pdf>

HPVワクチンは、「予防接種法」により定められた定期接種です。HPVワクチンに関する適切な情報提供等の対応に取り組んでいます。

山口県医師会

